

## 月次運用レポート



## フィデリティ・中小型株・オープン（野村SMA向け）

追加型投信／国内／株式

2024年4月

設定日：2006年4月7日

信託期間：原則として無期限

決算日：原則として毎年9月13日（休業日の場合は翌営業日）

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

LINE友だち追加  
はこちらから>>>フィデリティ投信LINE  
公式アカウントでは、  
マーケットに関する情  
報をお届けしています。

## ■基準価額・純資産総額の推移

|       | 2024/3/29 | 2024/2/29 |
|-------|-----------|-----------|
| 基準価額  | 16,018 円  | 15,684 円  |
| 純資産総額 | 3.6 億円    | 3.5 億円    |
| 累積投資額 | 16,018 円  | 15,684 円  |

|                |     |          |              |
|----------------|-----|----------|--------------|
| 基準価額<br>(月中)   | 高 値 | 16,018 円 | (3月29日)      |
|                | 安 値 | 15,304 円 | (3月13日)      |
| 基準価額<br>(設定来)  | 高 値 | 16,018 円 | (2024年3月29日) |
|                | 安 値 | 3,309 円  | (2009年3月12日) |
| 累積投資額<br>(設定来) | 高 値 | 16,018 円 | (2024年3月29日) |
|                | 安 値 | 3,309 円  | (2009年3月12日) |

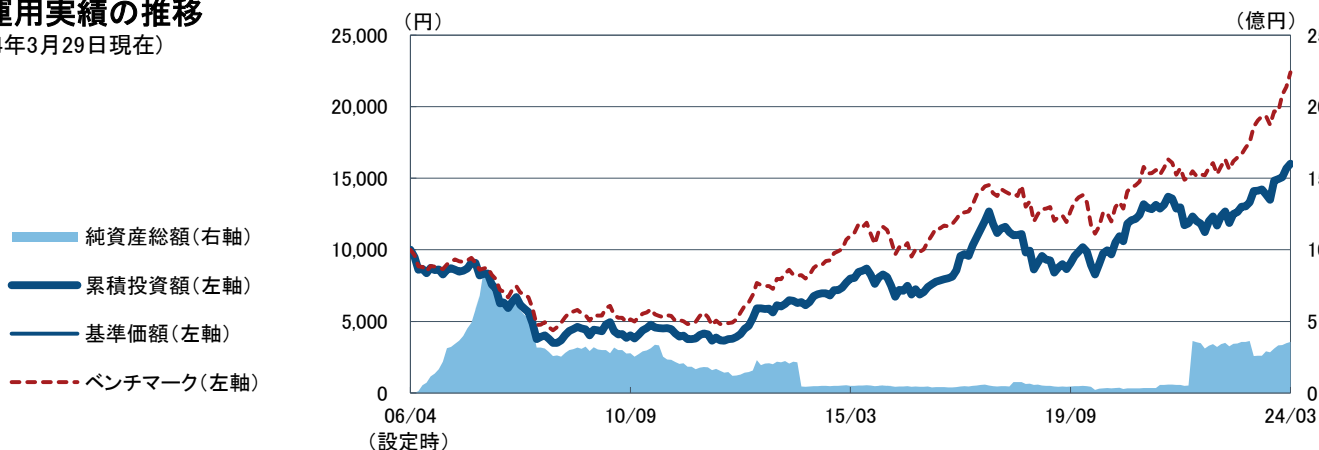
## ■累積リターン

(2024年3月29日現在)

|        | 直近1ヶ月 | 3ヶ月    | 6ヶ月    | 1年     | 3年     | 設定来     |
|--------|-------|--------|--------|--------|--------|---------|
| ファンド   | 2.13% | 7.14%  | 15.55% | 23.13% | 21.50% | 60.18%  |
| ベンチマーク | 4.73% | 13.96% | 15.74% | 34.32% | 41.76% | 124.05% |

## ■運用実績の推移

(2024年3月29日現在)



※基準価額は、運用管理費用控除後のものです。

※累積投資額は、ファンド設定時に10,000円でスタートしてからの収益分配金を再投資した実績評価額です。ただし、収益分配金にかかる税金は考慮していません。ベンチマークはファンド設定日前日を10,000円として計算しています。

※累積リターンは、収益分配金を再投資することにより算出された収益率です。ただし、収益分配金にかかる税金は考慮していません。

※ベンチマークは、Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス（配当金込）です。

※当該実績は過去のものであり、将来の運用成果等を保証するものではありません。

## ■分配の推移(1万口当たり／税引前)

(2024年3月29日現在)

| 決算期   | 日付         | 分配金 |
|-------|------------|-----|
| 第13期  | 2018年9月13日 | 0 円 |
| 第14期  | 2019年9月13日 | 0 円 |
| 第15期  | 2020年9月14日 | 0 円 |
| 第16期  | 2021年9月13日 | 0 円 |
| 第17期  | 2022年9月13日 | 0 円 |
| 第18期  | 2023年9月13日 | 0 円 |
| 設定来累計 |            | 0 円 |

## ■組入上位10銘柄(マザーファンド・ベース)

(組入銘柄数: 82)

(2024年2月29日現在)

|          | 銘柄                  | 業種       | 比率    |
|----------|---------------------|----------|-------|
| 1        | リゾートトラスト            | サービス業    | 3.2%  |
| 2        | 大阪ソーダ               | 化学       | 2.9%  |
| 3        | マニー                 | 精密機器     | 2.9%  |
| 4        | MARUWA              | ガラス・土石製品 | 2.8%  |
| 5        | コンソルディア・フィナンシャルグループ | 銀行業      | 2.3%  |
| 6        | ロート製薬               | 医薬品      | 2.3%  |
| 7        | SWCC                | 非鉄金属     | 2.2%  |
| 8        | サンウェルズ              | サービス業    | 2.1%  |
| 9        | 東急不動産ホールディングス       | 不動産業     | 2.1%  |
| 10       | 宝ホールディングス           | 食料品      | 2.0%  |
| 上位10銘柄合計 |                     |          | 24.9% |

※分配金は過去の実績であり、将来の成果を保証するものではありません。また運用状況によっては分配を行わない場合があります。

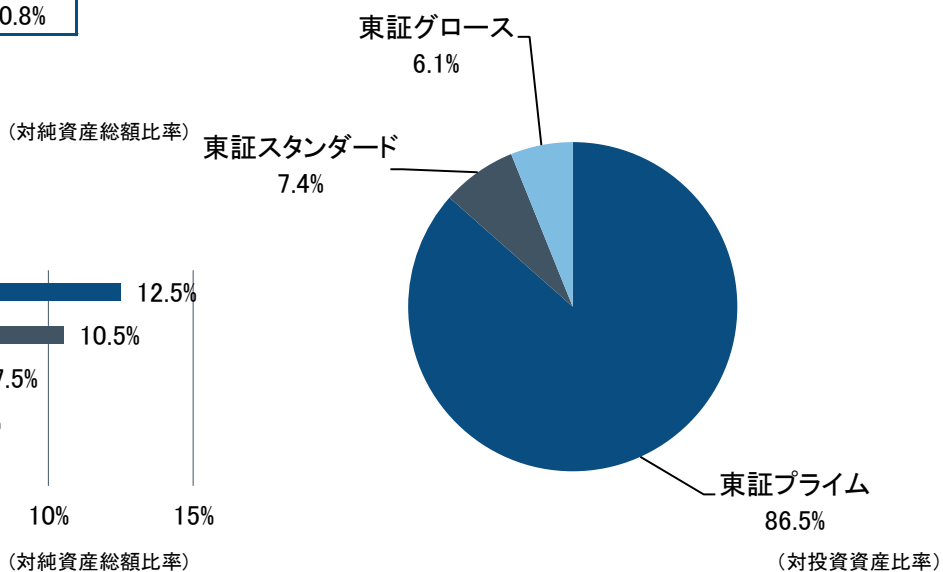
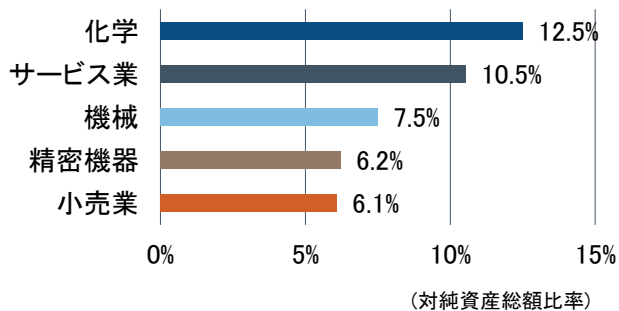
(対純資産総額比率)

**■ポートフォリオの状況(マザーファンド・ベース)**

(2024年2月29日現在)

**◆資産別組入状況**

|        |       |
|--------|-------|
| 株式     | 99.2% |
| 現金・その他 | 0.8%  |

**◆市場別組入状況**

**◆組入上位5業種**


※未払金等の発生により「現金・その他」の数値がマイナスになることがあります。  
 ※業種は東証33業種に準じて表示しています。

## ■コメント

(2024年3月29日現在)

## 【市場概況】

当月の東京株式市場は、日銀のマイナス金利政策が解除されてデフレ脱却期待が高まり、日経平均株価は史上最高値を更新しました。

前月からの上昇の勢いを受け継ぎ、日経平均株価は月初に史上初となる4万円の大台に到達しました。その後は米半導体株の下落や、日銀の政策変更を睨んで円高が進んだことなどがマイナス要因となって反落を強いられましたが、春闘で昨年よりも高い賃上げ率が確認されてデフレ脱却期待が高まると、市場で日銀の政策転換の織り込みが進み、株価は力強く上昇しました。日銀はマイナス金利や長短金利操作、上場投資信託買い入れなどの政策の終了を決定した上で、緩和的な金融環境を継続すると強調した一方、米連邦準備制度理事会は年内3回の利下げを行う方針を維持し、日米の金融政策決定会合が大方の事前想定通りに通過したことが株価を一段と押し上げました。日経平均株価は一時41,000円台に乗せるなど、終値で史上最高値を再び更新した後、月末にかけては利益確定売りや3月期決算企業の配当落ちの影響などからやや調整しましたが、そのまま4万円台を維持して月を終えました。

月間の騰落率は、TOPIX（配当込）が+4.44%、日経平均株価は+3.07%でした。

Russell/Nomura Mid-Small Capインデックス（配当込）が+4.73%、東証グロース市場250指数は-3.36%となり、新興市場は軟調でした。

## 【運用状況】

持続的かつ競争力が高いビジネスモデルをもち、比較的高い収益成長やフリーキャッシュフローの創出が中長期的に持続していくことが期待できる銘柄を中心に、当月もポートフォリオを構築しました。2月末においては、サンウェルズが組入上位に加わりました。

2月のパフォーマンスにおいて、ベンチマークに対してプラスに影響した要因は、三井E&S、三井海洋開発、サンウェルズのオーバーウェイトなどでした。逆にマイナスに影響した要因は、エンプラス、ANYCOLOR、ノジマのオーバーウェイトなどでした。

## 【今後の見通し】

経済再開に伴う稼働率の上昇、値上げの浸透やインバウンド需要の回復といった要因が、中小型株の利益を牽引しています。依然として大型株に対する出遅れ感強いものの、足元の局面は高い成長が期待される有望な中小型株を割安な水準で仕入れる時機であると考えています。差別化された技術力やビジネスモデルを武器として、着実な成長を続ける企業が多数存在するところが中小型株投資の魅力です。ボトム・アップ・アプローチによる徹底的な調査・分析に基づいて、強固なビジネスモデルや高い競争力を背景に比較的高い収益成長が見込まれ、かつ外部環境の影響を相対的に受けにくいような企業を選別し、ポートフォリオを構築していきます。

※コメントは、資料作成時点におけるもので将来の市場環境等の変動等を保証するものではありません。また、記載されている個別の銘柄・企業名については、あくまでも参考として申し述べたものであり、その銘柄又は企業の株式等の売買を推奨するものではありません。

※本資料においてグラフ、表にある比率は、それぞれの項目を四捨五入して表示しています。

# フィデリティ・中小型株・オープン(野村SMA向け)

追加型投信／国内／株式

## ファンドの特色

- わが国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されている株式を主要な投資対象とします。
- 個別企業分析に基づき、主としてわが国の比較的中・小規模の高成長企業(市場平均等に比較し高い成長力があり、その持続が長期的に可能と判断される企業)を選定し、利益等の成長性と比較して妥当と判断される株価水準で投資を行ないます。
- 個別企業分析にあたっては、日本および世界の主要拠点のアナリストによる独自の企業調査情報を活用し、ポートフォリオ・マネージャーによる「ボトム・アップ・アプローチ」を重視した運用を行ないます。
- ポートフォリオ構築にあたっては、分散投資を基本とし、リスクの分散を図ります。
- 株式の組入比率は、原則として高位を維持し、投資信託財産の総額の65%超を基本とします。
- Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックス(配当金込)をベンチマークとします。
  - Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスとは、Russell/Nomura日本株インデックスの中小型株指数です。Russell/Nomura Total Market インデックスの時価総額中位35%と時価総額下位15%をカバーし、Russell/Nomura Mid-Small Cap Growth インデックスおよびRussell/Nomura Mid-Small Cap Value インデックスを含みます。
  - Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの知的財産権およびその他一切の権利は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyに帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社およびFrank Russell Companyは、Russell/Nomura Mid-Small Cap インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当ファンドの設定の可否、運用成果等並びに当ファンド及びRussell/Nomura Mid-Small Cap インデックスに関連して行われる当社のサービス提供等の行為に関して一切責任を負いません。

※資金動向、市況動向、残存信託期間等によっては上記のような運用ができない場合もあります。

※ファンドは「フィデリティ・中小型株・オープン・マザーファンド」を通じて投資を行ないます。上記はファンドの主たる投資対象であるマザーファンドの特色および投資方針を含みます。

## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので基準価額は変動し、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆様へ帰属します。したがって、投資者の皆様の投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失が生じることがあります。

ファンドが有する主なリスク等(ファンドが主に投資を行なうマザーファンドが有するリスク等を含みます。)は以下の通りです。

### 主な変動要因

|            |  |
|------------|--|
| 価格変動リスク    | 基準価額は有価証券等の市場価格の動きを反映して変動します。有価証券等の発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなる場合があります。 |
| 特定分野投資のリスク | 金利および経済動向、法制度などの市場環境が、特定分野(特定業種、特定規模の時価総額の銘柄等)に対して著しい影響を及ぼすことがあります。            |

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

### その他の留意点

|                     |   |
|---------------------|---|
| クーリング・オフ            | ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。  |
| 流動性リスク              | ファンドは、大量の解約が発生し短期間に解約資金を手当てする必要性が生じた場合や、主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスクや、取引量が限られるリスク等があります。その結果、基準価額の下落要因となる場合や、購入・換金受付の中止、換金代金支払の遅延等が発生する可能性があります。   |
| デリバティブ(派生商品)に関する留意点 | ファンドは、有価証券先物、各種スワップ、差金決済取引等のデリバティブ(派生商品)を用いることがあります。デリバティブの価格は市場動向などによって変動するため、基準価額の変動に影響を与えます。デリバティブが店頭取引の場合、取引相手の倒産などにより契約が履行されず損失を被る可能性があります。  |
| ベンチマークに関する留意点       | ファンドのパフォーマンスは、ベンチマークを上回る場合もあれば下回る場合もあり、ベンチマークとの連動を目指すものではありません。また、投資対象国または地域の市場の構造変化等によっては、ファンドのベンチマークを見直す場合があります。  |
| 分配金に関する留意点          | 分配金は、預貯金の利息とは異なります。分配金の支払いは純資産から行なわれますので、分配金支払い後の純資産は減少することになり、基準価額が下落する要因となります。分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の利子・配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。計算期間におけるファンドの運用実績は、期中の分配金支払い前の基準価額の推移および収益率によってご判断ください。投資者のファンドの購入価額によっては分配金はその支払いの一部、または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。 |

# フィデリティ・中小型株・オープン(野村SMA向け)

追加型投信／国内／株式

## ファンドに係る費用

|              |  |
|--------------|--|
| 購入時手数料       | ありません。   |
| 換金時手数料       | ありません。   |
| 運用管理費用(信託報酬) | ファンドの純資産総額に対し、 <b>年0.99%(税抜0.90%)</b> の率を乗じた額が運用管理費用(信託報酬)として毎日計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、ファンドの毎計算期の最初の6ヵ月終了日(当該日が休業日の場合は翌営業日)及び毎計算期末または信託終了のときにファンドから支払われます。  |
| その他費用・手数料    | 組入る有価証券の売買委託手数料、信託事務の諸費用等は、ファンドからその都度支払われます。ただし、運用状況等により変動しますので、事前に料率、上限額等を表示できません。<br>法定書類等の作成等に要する費用、監査費用等は、ファンドの純資産総額に対して年率0.10%(税込)を上限とする額がファンドの計算期間を通じて毎日計上され、毎計算期の最初の6ヵ月終了日(当該日が休業日の場合は翌営業日)及び毎計算期末または信託終了のときに、ファンドから支払われます。 |
| 信託財産留保額      | 基準価額に対し <b>0.30%</b> です。   |

※当該手数料・費用等の上限額および合計額については、お申込み金額や保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

※ファンドに係る費用の詳細については、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

## その他のファンド概要

|        |   |
|--------|---|
| 基本的性格  | 追加型投信／国内／株式   |
| 信託設定日  | 2006年4月7日   |
| 信託期間   | 原則として無期限  |
| 換金制限   | ファンドの資金管理を円滑に行なうため、1日1件5億円を超えるご換金はできません。また、1日1件5億円以下の金額であっても、別途制限を設ける場合があります。   |
| 繰上償還   | ファンドの受益権の残存口数が30億口を下回った場合等には、繰上償還となる場合があります。  |
| ベンチマーク | 「ファンドの特色」をご覧ください。   |
| 決算日    | 原則、毎年9月13日<br>※決算日にあたる日が休業日となった場合、その翌営業日を決算日とします。   |
| 収益分配   | 年1回の決算時に、収益分配方針に基づいて、分配を行いません。ただし、委託会社の判断により分配を行わない場合もあります。<br>収益分配金は、税引き後無手数料で再投資されます。<br>※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。 |
| 税金     | 原則として、収益分配時の普通分配金ならびにご換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。<br>税法が改正された場合等には、上記内容が変更になる場合があります。                                       |

※課税上は株式投資信託として取扱われます。



# フィデリティ・中小型株・オープン(野村SMA向け)

追加型投信／国内／株式

## 委託会社、その他の関係法人

|      |   |
|------|---|
| 委託会社 | フィデリティ投信株式会社 【金融商品取引業者】関東財務局長(金商)第388号<br>【加入協会】一般社団法人 投資信託協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会                            |
| 受託会社 | 野村信託銀行株式会社  |
| 販売会社 | 野村證券株式会社 【金融商品取引業者】関東財務局長(金商)第142号<br>【加入協会】日本証券業協会／一般社団法人 日本投資顧問業協会／一般社団法人 金融先物取引業協会／一般社団法人 第二種金融商品取引業協会 |

- 当資料はフィデリティ投信によって作成された最終投資家向けの投資信託商品販売用資料です。投資信託のお申込みに関しては、以下の点をご理解いただき、投資の判断はお客様ご自身の責任においてなさいますようお願い申し上げます。なお、当社は投資信託の販売について投資家の方の契約の相手方とはなりません。
- 投資信託は、預金または保険契約でないため、預金保険および保険契約者保護機構の保護の対象にはなりません。また、金融機関の預貯金と異なり、元本および利息の保証はありません。販売会社が登録金融機関の場合、証券会社と異なり、投資者保護基金に加入しておりません。
- 「フィデリティ・中小型株・オープン(野村SMA向け)」が投資を行なうマザーファンドは、主として国内の株式を投資対象としていますが、その他の有価証券に投資することもあります。
- ファンドの基準価額は、組み入れた株式やその他の有価証券の値動き、為替相場の変動等の影響により上下しますので、これにより投資元本を割り込むことがあります。また、組み入れた株式やその他の有価証券の発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込むことがあります。すなわち、保有期間中もしくは売却時の投資信託の価額はご購入時の価額を下回ることもあり、これに伴うリスクはお客様ご自身のご負担となります。
- ご購入の際は投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめまたは同時にお渡しいたしますので、必ずお受取りのうえ内容をよくお読みください。
- 投資信託説明書(交付目論見書)については、販売会社またはフィデリティ投信までお問い合わせください。なお、当ファンドの販売会社につきましては以下のホームページ(<https://www.fidelity.co.jp/>)をご参照ください。
- 当資料に記載の情報は、作成時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。また、いずれも将来の傾向、数値、運用結果等を保証もしくは示唆するものではありません。
- 当資料にかかわる一切の権利は引用部分を除き当社に属し、いかなる目的であれ当資料の一部又は全部の無断での使用・複製は固くお断りいたします。

FACTPD 231214-2